

みんなの力を借りながら

都立久我山青光学園 校長 宮田 守

一雨ごとに温かくなってきて、春が近づいていることが分かります。本日、本校では幼稚部の修了式と、小学部・中学部の卒業式がありました。毎年、子供たちを送り出しながら、驚くのですが、本当に子供たちの成長は早いですね。保護者の方々も、「つい最近入学したように思うのだけれど…」と、子供たちの成長の早さに驚いていることと思います。今日巣立った、幼稚部2名、視覚部門小学部5名、視覚部門中学部14名、知的部門小学部32名、知的部門中学部25名の幼児・児童・生徒の皆さんが、元気に新生活を迎えられるように心から祈っています。

さて先月の話にはなりますが、私は、伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」の贈呈式に出席してきました。昨年度から本校にも図書館司書の方が定期的に来ていただけるようになり、これを機会に図書館機能も充実していこうと思ひ応募したところ、ありがたいことに助成金をいただくことができました。このように外部の方のお力をお借りしたのは今回の件だけではありません。令和7年度は、JA東京中央の方に、大根づくりを教えていただいたり、JR東日本の方にお誘いいただいて、就業体験をしたり、外部の方にたくさん助けていただいた一年でした。

来年度は、近隣の「グランダ千歳烏山」からもお声が掛かっており、今、作業学習などでどのように近隣と関わっていくかを検討しているところです。次年度も一步一步着実に地域との連携を広げていこうと思ひます。保護者の皆様、ぜひ次年度も御協力のほどよろしくお願いいたします。

視覚障害教育部門副校長 月崎 泰照

令和7年度は、視覚障害教育部門の幼児・児童・生徒の活躍が光った年でした。それぞれが違った視覚障害の特性をよく理解して、時には悩み苦しみ、そしてそれを乗り越えて成長していく姿を間近に見て、心強く思いました。

幼稚部では、日々の活動の中にこれまでとは異なる取り組みを実践し、個々の特性を引き出すことができました。久我山青光フェスタでの発表がそれを物語っていたと思います。

小学部では学年相応の学習活動を着々と進め、教科学習や個々の課題に合わせた活動を積み重ねながら、身も心も大きく成長してきました。

中学部では個々の利点を生かしつつ、一丸となって物事に取り組む姿勢も身に付けた生徒たちの姿が見られました。部活動で活躍し優勝を勝ち取った生徒、歌唱で聴衆を魅了した生徒、美術展で個性豊かな作品を披露した生徒、それぞれにこれからの活躍が楽しみです。

各御家庭の御理解・御協力には謹んで感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

経営企画室長 福田 正実

今年度も1年間、経営企画室の運営に御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。

経営企画室は幼児・児童・生徒の皆さんが安心・安全な学校生活を送れるよう、学校内の予算・施設・庶務関係、教職員の人事管理、学校徴収金、就学奨励費、給食・寄宿舎食、校舎内外の環境整備等を担当しています。

本校は二つの部門があるため、幼児・児童・生徒数も多く、企画室の業務も多いのですが、皆さんが毎日の授業や活動などの学校生活を通して、たくさんの経験を積み重ねて学び、成長できるよう、企画室職員一同日々職務に取り組んでいます。

来年度は、また多くの新入生をお迎えすることになります。これから新年度に向けて、一部の教室の改修工事も実施していきます。保護者の皆様には引き続き御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

知的障害教育部門副校長 堀越 貴美子

現行の学習指導要領が告示されてから約9年が経ち、その間にグローバル化やデジタル化、AIの著しい進展など、社会は大きく変化してきました。特に近年のAIの発達はめざましく、都立学校でも活用が始まるなど、教育現場にも新たな可能性が広がっています。本校でもICT活用が進み、授業の幅が広がっています。しかし、子供たちの実態に応じた指導という教育の根本は変わりません。ICTで力を伸ばす子がいる一方、具体物を用いた学びが効果的な子もいます。一人一人を丁寧に見取り、最適な学びを届けることの大切さを実感した1年でした。

令和8年度も、社会の変化に柔軟に対応しながら、本校が継続的に成長していけるよう努めてまいります。そして何より、子供たち一人一人の笑顔と健やかな成長のために、教職員一同、力を尽くしてまいります。

今年度も温かい御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。